

# 平穩の象徴

明石 哉子

津波で家も財産も失った友人が

「ほんとうに裸一貫になっちゃった」とつぶやいた。

目に見えるものはすべて津波がさらっていった。

でも、心や胸や頭の中にあるものは、  
生きてる限り、私とともにある。

ほんとうに大切なのは、絆と命。

それがわかっただけでも、命拾いした甲斐があった。

そんな言葉を、途切れ途切れに紡ぎながら、  
彼女は大切そうに湯呑みを掌で包む。

「ゆっくりお茶を淹れて飲むことが

まるで平穩の象徴みたい」とポツリ言う。

モノが溢れていても

豊かさを感じることができなくなっていた今という時代。

手間をかけること、

加減すること、

一呼吸おくこと、

最後の一滴まで大切にすること、

目に見えないけれど、

脈々と受け継がれてきた大切な知恵が

日本茶の時間にはぎゅっと詰まっている。

それは私たちの中にある。



画：光永 梨江